

緊急公開

夢みてしまった。  
絶望の国で——

# 東京クルド

T O K Y O K U R D S

18歳のオザンと19歳のラマザン  
差別的な入管法、1%に満たない難民認定率  
それでも青春を生きる二人の物語

日時 2021年11月16日(火)  
19:00~20:50 (18:30開場)

会場 大竹財回会議室  
東京都中央区京橋1-1-5セントラルビル11F

参加費 一般=500円  
学生・大竹財回会員=無料  
定員15名【要予約】

主催 一般財団法人  
大竹財回

監督:日向史有  
撮影:松村輪行、金沢尚樹、鈴木克彦  
編集:東岳志  
カラーグレーディング:横山隆太郎  
サウンドデザイン:橋本由  
MA:宮永憲一  
協力:日本クルド文化協会  
技術協力:104 co Ltd  
クルド語翻訳:チャクワガス  
助映:大メディア 文化庁文化庁国際関係科(人権・移民・難民支援事業) 独立行政法人文化庁(国際文化振興会)  
プロデューサー:牧智雄 横山英美 本本敦子  
製作:ドキュメンタリージャパン  
配給:東風  
2021年 | 日本 | 103分  
© 2021 DOCUMENTARY JAPAN INC

Web予約  
PC・モバイル共通  
<https://bit.ly/3C4m7wd>



[tokyokurds.jp](http://tokyokurds.jp)

2021年5月、

入管の収容者に対する非人道的な行為や環境を問題視する世論の高まりを背景に、入管法改正案は事実上の廃案となった。しかし、本作に登場する人々が置かれている過酷な状況は何も変わらない——

故郷での迫害を逃れ、小学生のころに日本へやってきたオザン(18歳)とラマザン(19歳)。

二人は難民申請を続けるトルコ国籍のクルド人。

入管の収容を一旦解除される「仮放免許可書」を持つものの、許されているのは「ただ、いること」。

身分は非正規滞在者で、住民票もなく、自由に移動することも、働くこともできない。

また社会の無理解によって教育の機会からも遠ざげられている。

いつ収容されるかわからないという不安を常に感じながら、それでも夢を抱き、将来を思い描く。

「難民条約」を批准しながら

難民認定率が1%にも満たない日本。

救いを求める人びとに対する差別的な仕打ち。

希望を奪っているのは誰か? 救えるのは誰か?

2019年3月、東京入管で事件が起きた。

長期収容されていたラマザンの叔父メメット(38歳)が極度の体調不良を訴え家族らが救急車を呼んだ。

しかし、入管は2度にわたり救急車を追い返した。

メメットが病院に搬送されたのは30時間後のことだった。

在留資格を求める声に、ある入管職員が嘲笑混じりに吐き捨てた。

“帰ればいいんだよ。他の国行ってよ”

5年以上の取材を経て描かれるオザンとラマザンの青春と「日常」。

そこから浮かび上がるのは、救いを求め懸命に生きようとする人びとに対するこの国の差別的な仕打ちだ。

かれらの希望を奪っているのは誰か? 救えるのは誰か?

問われているのは、スクリーンを見つめる私たちが。

[tokyokurds.jp](http://tokyokurds.jp)

[fb.com/tokyokurds](https://www.facebook.com/tokyokurds)

[@tokyokurds](https://twitter.com/tokyokurds)

上映会のご予約・お問い合わせ 一般財団法人 大竹財団

東京都中央区京橋1-1-5 セントラルビル11階  
JR東京駅八重洲中央口から徒歩4分(八重洲地下街24番出口右階段すく)、  
東京メトロ京橋駅7出口から徒歩3分、東京メトロ日本橋駅B3出口から徒歩4分

<https://ohdake-foundation.org> 03-3272-3900



スマートフォンのQRコードアプリで読み取ると、現在地から会場までのアクセス方法が検索できます

